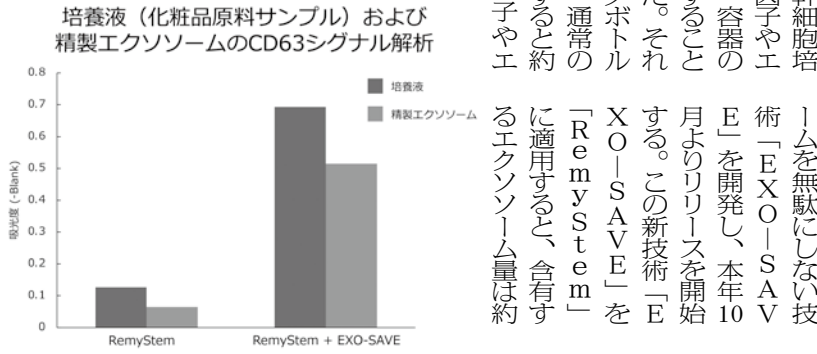


エクソソーム含有量増やす新技術を開発

アンチエイジングを目的としている点だ。2012年にヒト幹細胞培養液の機能性成分である成長因子などのタンパク質を日本に導入したアンチエイジング（東京都港区）は、今年8月設立10周年を迎える。これを機に同社ではヒト幹細胞培養液の需要の高まりとともに、高濃度化化粧品を作るための目的で、リポソームしていない原料の「RemyStem」やエクソソームを表示できる「RSMixture 9.6E」などの需要が増してきている成長因子やエクソソームを無駄にしない技術「EXO-SAVE」を開発し、本年10月よりリリースを開始する。この新技術「EXO-SAVE」を「RemyStem」に適用すると、含有するエクソソーム量は約7倍になることがわかった。これによって、同じ含有量の化粧品を「RemyStem」で作成したとしても、EXO-SAVE適用なしとEXO-SAVE適用原料では体感する効果は7倍違うと考えられる。

また、ヒト幹細胞培養液を浸透させる技術の一つにマイクロニードルパッチがある。同社はマイクロニードルパッチの製造メーカーと提携し、最適なヒト幹細胞培養液マイクロニードルを開発、9月より提供

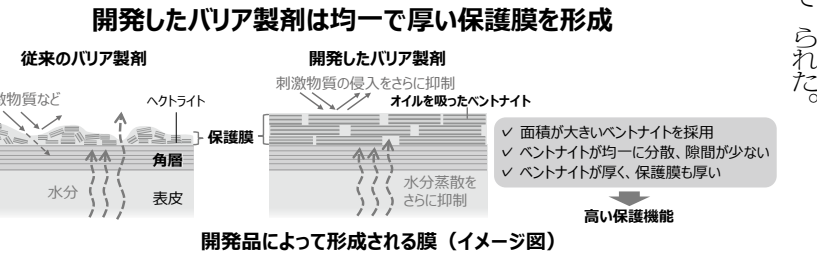


ASにおいて水分分子シグナルが強く水分量が多いのに対し、60代のMRI画像では水分分子シグナルが弱く水分量が少ないこと、SMAの形態変化を定量的に測定できていることがわかった。さらに、SMAの形態変化が原因とな

ポーラ化成 クリーム製剤の角層保護機能を進化

ポーラ化成工業は、原料の形状や特性に着目した研究により、クリーム製剤の角層保護機能を進化させることに成功した。同技術を用いたクリームは厚く均一な膜を形成し、これまでの高保護タイプのクリームを上回る機能を発揮する。

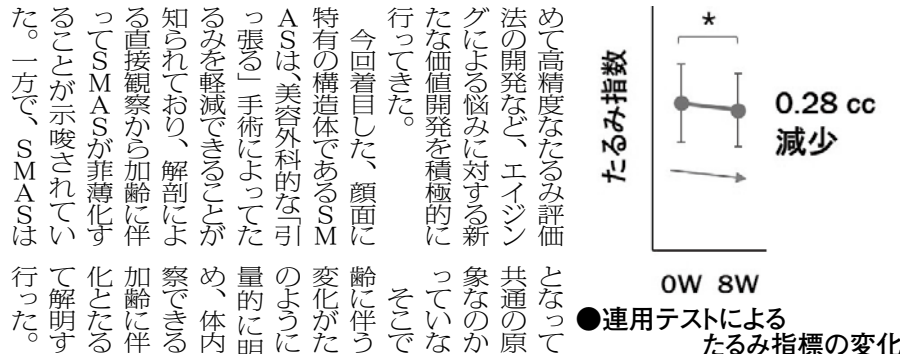
マスク生活が定常化した昨今では、多くの人が「肌のケア」に力を入れている。肌荒れ・かゆみ・ニキビといった炎症を伴う肌トラブルを抱えるようになり、肌のケアに力を入れている。肌荒れ・かゆみ・ニキビといった炎症を伴う肌トラブルを抱えるようになり、肌のケアに力を入れている。



その結果、「GK2+アミノ酸系界面活性剤組成」の3組成について、痒み症状を抱える成人男女、各組成群11〜13名に4週間連用してもらい、肌の保湿効果として経表皮水分蒸散量、かゆみの指標になる電流知覚閾値を測定し、検証を行った。

世界で初めて表在性筋膜の加齢変化を定量化

資生堂は山梨大学医学部玉田大輝特任助教との共同研究により、顔の肌の最深部にある表在性筋膜（SMA）の加齢に伴う形態変化を、世界で初めて定量的に計測することに成功した。今回、脳や肝臓の診断にも用いられる高性能MRIを応用し、SMAの水分量を指標として非侵襲的に測定すること、加齢に伴うSMAの形態変化を非侵襲的に定量化した。また、たるみの重要な因子である年齢やBMIの指標が同等であっても、SMAの老化が進んでいる対象者群ではたるみの程度が大きく、ハリも低下していることから、顔のたるみは、これまで当社が明らかにしてきた真皮や皮下脂肪の要因に加え、それよりさらに深い部分にあるSMAの形態変化も一因であることがわかった。さらに、SMAに着目して新たに開発した手法と製剤を組み合わせた美容ソリューションを8週間連用した対象者に対して、高精度なたるみ評価法を用いて測定したところ、持続的なたるみ改善効果が認められた。今後、肌の深部の状態が顔の見た目に与える影響を、最先端の技術を用いて解き明かし、三次元的な顔形状の老化に迫る革新的なテクノロジーを創出していく。



ASにおいて水分分子シグナルが強く水分量が多いのに対し、60代のMRI画像では水分分子シグナルが弱く水分量が少ないこと、SMAの形態変化を定量的に測定できていることがわかった。さらに、SMAの形態変化が原因とな

ライオン 新規皮膚洗浄剤連用による肌へのプラス効果を確認

ライオンは、皮膚洗浄剤（モデル組成）連用による肌の保湿効果と、かゆみ抑制効果を確認した。その皮膚洗浄剤は、炎症抑制の有効成分として使われるグリチルリチン酸ジカリウム（GK2）、アミノ酸系界面活性剤、カチオン化高分子を組み合わせたもので、「第121回日本皮膚科学会総会」にて発表した。

GK2は抗炎症成分と、ノ酸系界面活性剤は刺激が少なく、アミノ酸系界面活性剤は肌の保湿効果と、かゆみ抑制効果に